



令和3年度学校だより

甲府市立南西中学校

銀杏 (いちょう)

第8号

学校教育目標 「たくましい心と体を持ち 学び合える生徒の育成」

文責：校長 石井 敬



東京オリンピックの開幕まであと17日。東京ではリバウンドの兆候とも思えるような感染者数の増加が見られ、複雑な思いを抱えたまま世界的なスポーツの祭典を迎えることになりそうです。今、イギリスではテニスの四大大会の一つ“ウィンブルドン選手権大会”が行われていますが、選手のプレーに一喜一憂しながら声援を送る観客の姿がテレビに映し出されるのを見るたびに、日本でも一日も早くこんな日が訪れることを願わずにはられません。

さて、7月に入り一学期も残すところ2週間となりました。実際に学校に来るのは、今日を含めて11日です。子どもたちにしてみれば、目の前に迫った夏休みを指折り数えて心待ちにしていると思いますが、その夏休みを有意義なものにするためにもここが頑張りどころです。毎日の学習を始め、様々な学校・学年行事や生徒会活動、部活動等を通して確実に成長した部分がある一方で、個々の課題も少しずつはっきりしてきたのではないかと思います。それらをきちんと振り返り、36日間の夏休みに、そして二学期へとつなげていくための大事な準備期間が『今』と言えます。

各ご家庭でも、お子さんと一緒に一学期を振り返り、14日から始まる三者懇談ではお子さんが自分から目標宣言ができるよう応援をよろしくお願いたします。



2年生 校外学習へ！！

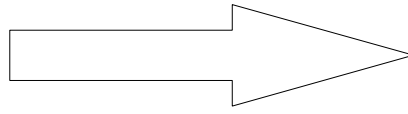
『一路順風』のスローガンを掲げ、赤学年の2年生が車山・諏訪湖方面への校外学習に出かけられました。当日は朝からあいにくの雨。しかもかなり激しい降り方でしたので、校外学習のメイン・アクティビティである「車山登山&ハイキング」は、雨バージョンの別メニューに変更か・・・と思われました。しかし、目的地に近づくにつれ雨脚は次第に弱まり、車山周辺は曇り空でしたので、予定していた行程はすべて計画通り行うことができたそうです。これも日頃の行いが良い2年生へのご褒美と「これを機にさらに仲良く、まとまりのある学年になれよ！」という天気的神様からのメッセージだったのではないかと思います。

コロナの感染拡大の不安は様々な行事や教育活動に影響を与え、学校としても実施すべきかについては常に頭を悩ませています。今回の2年生の校外学習も本来は1年生の時に実施予定でしたので、2年越しの校外学習となりました。それだけに子どもたちはとても楽しみにしていると聞いていましたし、学年として手がける大きな行事は初めてとなりましたので、リーダーの動きを確認したり、集団の力をつけたりするための格好の学びの場になったのではないかと思います。赤学年の今後の活躍が楽しみです。





こんなに大きくなりました！



左側の写真を撮ったのが5月の上旬。それから2か月ほど経ったのが右側の写真です。『ヒマワリ畑』の立て札も加わりました。5Aの1年生が“作業の時間”を使って、教育指標の石碑がある花壇を整備してくれたお陰で、今月の終わり頃には一輪、二輪と花が咲き始めるのではないかと今から楽しみにしています。もちろん、5Aの子どもたちだけでなく、環境美化委員会の生徒が毎朝交代で水やりを欠かさないこともヒマワリたちの成長に大きく貢献しています。

今から5年前に私が南西中にお世話になっていた頃、花壇やプランターにはいつも花があふれていました。そして、3年のブランクを経て南西中に戻った時にも私をまず迎えてくれたのは、花壇の菜の花であり、玄関前のプランターに植えられたマリーゴールドやペチュニアの花々でした。花の絶えない南西中が健在であることをとてもうれしく思ったことを良く覚えています。子どもたちの手による花作り・花の世話という構図ができつつある今、その活動を大切にするとともに、花や緑に親しみ育てることが美しさを感じる気持ちや相手を思い喜んで手を貸せる優しい心にも繋がることを願ってやみません。

オープンスクールを開催

3日（土）に、石田小・国母小の6年生とその保護者を対象にオープンスクールを開催しました。この時期のOS実施には、ここ数年の生徒数減少に少しでも歯止めを掛けるという大きなミッションがあり、令和元年度がその初年度でした。しかし、昨年度はコロナのためやむなく中止とし、今年度も今の状況からすれば再び中止という選択肢もありましたが、感染防止の対策を講じ、なおかつ参加者の皆様にもご協力をいただく中で実施に踏み切りました。

しかしながら、この日は“大雨警報”が出されるほどの雨に朝からたたられ、致し方なく午後の部活動見学は中止としました。参加者の多くはそちらを楽しみにしていたようですので、雨の心配がなくなり天気が回復したことを考えると、参加希望者にも、張り切って準備をしていた各部の子どもたちにも申し訳ないことをし

たという思いがあります。特に生徒会の子たちが、参加者を迎えるための周到な準備をしていたと聞き、南西中の良さを伝えようと頑張ってくれたことには本当に感謝の気持ちで一杯になりました。

午前中の様子はどうかと、熱心に授業を参観したり、廊下の掲示物を見入ったりする参加者の姿がありました。短い時間でしたが、中学校の雰囲気や南西中の“におい”のようなものを感じ取ってもらえたのではないかと思います。それはまさに子どもたちの、飾らない素の姿であったような気がします。



【熱心に授業を見入る6年生とお母さん】